

## 4 溪流環境復元WG

### (1) 目標

プロジェクト・エリア内の溪流環境の現況を把握するとともに、「防災施設(=治山ダム等)」と「溪流環境における生物多様性の保全」を両立させる手法を検討しています。

これらの取組等により、溪流及び溪畔周辺の生物多様性が復元に向かう方向に誘導することを目標としています。

### (2) WG委員(外部有識者)

氏名	所属
中井 達郎	国士舘大学非常勤講師
高橋 剛一郎	富山県立大学教授

### (3) WG会議開催状況

	開催日	主な議題
第1回WG会議	6月22日	・今年度のWG検討項目とスケジュール ・2016-2020年度のWG活動計画 ・溪流環境の把握手法と活用方法の確立に向けた具体的アクションの検討 ほか
第2回WG会議	9月17日	・溪流環境の把握手法と活用方法の確立に向けた具体的アクションの検討 ・2016-2020年度のWG活動計画 ・茂倉沢モニタリング結果の把握 ほか
第3回WG会議	2月3日	・溪流環境の把握手法と活用方法の確立に向けた具体的アクションの検討 ・2016-2020年度のWG活動計画及び2016年度活動計画 ・茂倉沢モニタリング結果と来年度モニタリング項目 ほか

#### 溪流環境復元WG(第2回)

平成28年2月3日(水)平成27年度3回目となる溪流環境復元WG会議が、利根沼田森林管理署1階研修室で行われました。

会議では、27年度茂倉沢におけるモニタリング結果が共有されたほか、これまで行ってきた溪流概況調査を元に、溪流環境全体の評価指標の構築や茂倉沢の評価について引き続き検討していくこと等が議論されました。



会議の様子

#### (4) 今年度の主な取組と成果

##### ① 茂倉沢におけるモニタリングについて

生物多様性の保全・復元を図りつつ管理していく「赤谷の森」においては、治山施設について、防災上の必要性のみならず、施設が森林生態系に与える影響を考慮し、施設のあり方を検討する必要があります。平成21年11月には、防災機能と溪流の連続性の確保の両立を図りつつ、茂倉沢において治山ダムの中核部を試行的に撤去しました。

モニタリングについては、平成25年度の治山事業の終了を受けて、専門家から構成される平成25年度新治地区茂倉沢治山事業施設整備計画調査検討委員会のとりまとめや溪流環境復元WGの議論において、溪流環境の復元や防災機能についての効果を見るためには継続が望まれたところです。

この結果を受けて、溪畔林周辺の植生の変化の追跡や大規模出水時の変化の把握するため、今後も引き続きモニタリングを継続することになりました。

平成27年度は、水位、雨量、No.5-1 ダム、No.5-2 ダム付近の洗掘状況や瀬切れ状況を確認するための撮影、カワネズミの生息調査等を実施し、溪流における物理的環境と生物相についてモニタリングを行いました。

カワネズミについては、治山ダム撤去箇所付近から下流にかけては多くのフィールドサインが確認されました。

これらのモニタリングの結果を踏まえ、治山事業の結果の応答と効果の科学的な検証の方法等について検討を進めていく予定です。

##### ② 溪流環境の把握手法と活用方法、今後のWG活動計画について

溪流環境の生物多様性の評価手法を構築すべく、これまで溪流概況調査を行ってきましたが、同様の研究の少ない分野でもあり、溪流環境全体の評価指標の構築や評価指標による茂倉沢の評価については、引き続き検討が必要であるとの結論に至りました。このため、今後のWGでの活動計画としては、溪流概況調査の結果をとりまとめ、これを元に森林生態系との関係性等について調査・検討を進めていくこととしました。また、茂倉沢のモニタリングも継続していくこととなりました。

## 5 環境教育WG

### (1) 目標

環境教育の場とプログラムをつくり、これからの環境保全活動を担っていく子どもたちや指導者を育成します。生物多様性保全・復元活動の実践モデルである赤谷プロジェクトでは、人材育成のための教材を蓄積しています。これらをプログラム化し、行政機関・企業等を対象とした研修、児童生徒への学校教育、学生・一般の人々を対象とした社会教育等の環境教育活動を実践しています。



### (2) WG委員

氏名	所属
横山 隆一(座長)	日本自然保護協会参事

会議の様子(第2回)

### (3) WG会議開催状況

	開催日	主な議題
第1回WG 現地検討	7月25日	・小出俣を利用した”教育的な過ごし方”のメニュー作成
第2回WG会議	10月17日	・いきもの村の環境整備について ・小出俣を活用した“教育的な過ごし方”の検討 ・赤谷の日の課題と改良、刈り払い機の使用 ・2016-2020年度の活動計画の検討
第3回WG 現地検討	11月19日	・小出俣溪流歩きルート探索

### (4) 今年度の主な取組と成果

昨年度検討を行った小出俣を活用した「教育的な過ごし方」については、第1回、第3回で現地検討を行った千曲平周辺の溪流や溪畔林の巨木を観察するコースを設定しました。今後は整備を行いながら環境教育のプログラムも検討していくこととしています。また、赤谷の日の参加者を増やしていくための体験メニューの検討や、今後5年間の活動内容として、小出俣、いきもの村など教育活動のためのフィールドや素材の収集・整理を行い、地域からの参加を促していく取り組みを継続していくこととしました。

#### 環境教育WG(第3回)

平成27年11月19日(土)小出俣にて環境教育ワーキンググループ会議(第3回)が開催されました。

第3回は現地検討として、第1回で現地を視察した小出俣の溪流沿いのルートを環境教育活動に活用できるよう、観察ポイントの確認、ルートの再検討、樹名版の設置等を行いました。



現地検討の様子(第3回)

## 6 地域づくりWG

### (1) 目標

持続的な地域づくりを目指し、赤谷の森の自然史について、聞き取りや資料調査による把握、過去から現在に至る森林の利用（＝生態系サービス）の把握、水源地周辺の環境向上活動を通じて、赤谷の森の自然環境を効果的に活用する方法を検討する等を行っています。

### (2) WG委員(外部有識者)

氏名	所属
林 泉 (座長)	赤谷プロジェクト地域協議会代表幹事
土屋 俊幸	東京農工大学教授 (森林政策学)



会議の様子 (第1回)

### (3) WG会議開催状況

	開催日	主な議題
第1回WG会議	8月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>赤谷の森の持続的な資源利用の検討</li> <li>民有林との連携の検討と情報整理</li> <li>みなかみ町との連携及び「森の恵みと学びの家」の活用の検討</li> <li>2016-2020年度の活動計画</li> </ul> <p style="text-align: right;">ほか</p>
第2回WG (現地視察及び会議)	1月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>赤谷の森の資源利用検討のための視察</li> <li>赤谷の森の持続的な資源利用のニーズ把握と手順の整理</li> <li>民有林との連携の検討と情報整理</li> <li>2016-2020年度の基本方針と活動計画</li> </ul> <p style="text-align: right;">ほか</p>

#### 地域づくりWG会議 (第2回)

平成28年1月27日 (水) 群馬県みなかみ町「森の恵みと学びの家」にて、地域づくりWG会議 (第2回) が開催されました。

最初に赤谷の森の資源利用の検討のため、地域の小林産業、桐匠根津、深代喫煙具製作所の視察を行い、その後の会議で赤谷の森の資源利用と地域との連携方法等について検討を行いました。



現地視察の様子 (第2回)

### (4) 今年度の主な取り組みと成果

今年度地域づくりWGでは、赤谷の森の持続的な資源利用による地域づくりをテーマに、地域の木工関係の事業者の方々と意見交換を行い、事業者の方との連携や、国有林として活用できる制度の検討を行ったほか、民有林やNPOとの連携についても進めていくことを確認しました。

## **7 フィールド利用管理WG**

### **(1) 目標**

国有林を赤谷プロジェクトの活動エリアとして利用するためには、基本的に守らなければならない約束事があります。活動を進める中で新たな疑問や課題が出てくる場合もあり、そのような事案が発生した時点で問題の解決に向けて取り組みます。

### **(2) 今年度の主な取り組みと成果**

今年度はWGとしての活動はありませんでしたが、平成25年度に改正した「いきもの村利用ルール」の適切な運用にサポーターと共に取り組みました。

## 8 普及活動

赤谷プロジェクトが発足して12年目となりました。この間、赤谷の森をより豊かな森とするために、スギやカラマツの人工林を自然林に復元するための試験地の設定、猛禽類に配慮した森林施業や溪流の連続性の回復と安全性の確保の両立をするための取り組み等を進めてきました。しかしながら、これらの取組は生物の多様性等に関心を持つ方たちの中ではある程度知られているものの、地域の方からの認知度が低いという課題が依然として存在します。

このため、今年度も様々な普及・発信活動をみなかみ町等とも連携しながら行いました。

### ① akayaカフェ！

知っていそうで、知らないような、みなかみ町の“森”をテーマに、自然科学の専門家と、お茶を片手に楽しく語り合う場が「akayaカフェ」です。疑問に思ったこと、知りたいと思ったことを、気軽に聞けるのが特徴です。

今年度は、12月19日（土）赤谷プロジェクト地域協議会主催のakayaカフェ～1杯の珈琲から考える持続可能な暮らし～が開催され、「赤谷プロジェクト～いのちを未来をつなげる～」と題して赤谷プロジェクトの取組を紹介してきました。

～1杯の珈琲から考える持続可能な暮らし～ 平成27年12月19日

話題提供：おいちょcoffee竹之内国幹さんほか

「たくみの里 森の恵みと学びの家」参加者26名（関係者を除く）

#### 【内容】

1. みなかみ産カスタネットを通した森の恵みの活用の紹介（地域協議会 市毛 亮さん）
2. メキシコの森林農法から考える持続可能な暮らし（おいちょcoffee 竹之内国幹さん）
3. 森林農法栽培コーヒーの手焙煎ワークショップ（上記に同じ）
4. 赤谷プロジェクトが目指す生物多様性の復元と持続可能な地域づくり（赤谷森林ふれあい推進センター 藤澤将志）



ワークショップの様子



赤谷プロジェクトの紹介

地域協議会の市毛さんからは、昭和30年代にみなかみ町で開発された教育用カスタネットの物語を、写真と文章で紙芝居にしてお話いただきました。私たちもこどもの頃に手にしたカスタネットのお話を聞きながら、ものづくりの裏にある人の思いや歴史に触れることができました。

竹之内さんのお話からは、遠く離れたメキシコで、こどもや孫その先の未来のために森林を切り開いてコーヒーの木のみを育てるプランテーションから、様々な種類の木を植え、コーヒーの木だけでなく、昆虫、植物、動物、いろ

いろいろな生き物がくらす生物多様性豊かな森を育て、キノコやハチミツなどその恵みを得ながらコーヒーを栽培する森林農法の取り組みのことや、毎日のように飲んでいるコーヒーがどこでどのように作られ、運ばれてくるのかといった生活の中で見過ごしている視点など、いろいろな気づきをいただきました。

## ② 「赤谷の森まつり」において赤谷プロジェクト報告会を開催



平成27年11月8日（日）、「赤谷の森まつり～平成27年度赤谷プロジェクト活動報告会～」をみなかみ町「泊まれる学校さる小」にて開催しました。

当日は100人を超える来場者で賑わい大盛況となりました。

今回は、開催に当たり、プロジェクト3者のほか、赤谷プロジェクトサポーター、地域づくりWG委員、みなかみ町まちづくり交流課、泊まれる学校さる小、たくみの里農村公園公社、綾プロジェクト（てるはの森の会、綾町、九州管理局）、民話と紙芝居の家の宮崎さまとお友達（こども広場の運営）などみなかみ町民の皆様と、多くの方のご協力をいただきました。

### 1 時限目：「森の恵みのおもちゃづくり」

1 時限目は、こどもから大人まで楽しめる「森の恵みのおもちゃづくり」と題して、たくみの里「森の恵みと学びの家」によるカスタネットの絵付け体験やNPO法人日本グッド・トイ委員会の「モミの木で作るX'mas積み木」、「イヌワシのモバイルづくり」（よそみ屋ぷろここ）、「森のかけらストラップ・ヒノキの球果ストラップ・オリジナルバードコールづくり（赤谷センター）が行われました。

この他にも、竹とドングリと鍋を使った「ドングリ転がし遊び」や「森の積み木」コーナーも設置し、会場では子どもから大人まで笑顔がはじけていました。



オリジナルカスタネットづくり



イヌワシのモバイルづくり



もみの木Xmas積み木

### 2 時限目：「ウッドスタートで地域を変える～東京おもちゃ美術館の木育事業～」 「東京おもちゃ美術館」副館長 馬場清氏

2 時限目は、特別講演として、子どもが生まれたら国産材玩具をプレゼントする「ウッド・スタート」など子どもが木に触れながら育つ環境の整備を推進しているNPO法人日本グッド・トイ委員会事務局長（「東京おもちゃ美術館」副館長）

馬場清氏に「ウッドスタートで地域を変える～東京おもちゃ美術館の木育事業～」と題してご講演をいただきました。

### 3時限目：「赤谷プロジェクトの活動報告」、「イヌワシの研究発表」赤谷森林ふれあい推進センター所長、新治小学校5, 6年生有志

3時限目には赤谷センター所長による赤谷プロジェクトの活動報告を行い、最後に、特別発表として新治小学校5, 6年生の有志によるイヌワシの研究発表を発表していただきました。胸が熱くなるとてもすばらしい発表でした。

公演中には、こどもたちが遊べる場として「こども広場」を開設し、民話や紙芝居、折り紙などを楽しみました。



東京おもちゃ美術館馬場副館長の特別講演



赤谷センター藤澤所長のプロジェクト活動報告



新治小学校5, 6年生によるイヌワシの研究発表

また、会場入り口に開設した展示広場では、赤谷プロジェクトの活動展示のほか、みなかみ町のユネスコエコパーク、たくみの里「森の恵みと学びの家」、姉妹プロジェクトである宮崎県綾町の「綾の照葉樹林プロジェクト」の活動展示も行われ、赤谷センター所長の「Forest+Smile=For-e-Smile」つながるハートのコーナーでは、来場者のみなさんに森とのつながりや想いを書き綴ってもらいハートをつなげていただきました。



こども広場



パネル展示



For-e-Smileつながるハート

### ③ 「<sup>もり</sup>森林の恵みと学びの家」について

みなかみ町が取り組むユネスコエコパークの登録とその後の推進のための情報発信基地となる「森の恵みと学びの家」が平成27年5月1日（金）に正式にオープンしました（平成26年にプレオープン）。赤谷プロジェクトもエコパーク内で行われる重要な活動として、情報発信や木育イベントでの連携等取り組んでいきます。



「森林の恵みと学びの家」に赤谷プロジェクトの紹介パネルを設置

「森林の恵みと学びの家」を会場にイベントやセミナー等を開催し、あわせて赤谷プロジェクトの取組などを発信しました。



〈関東森林管理局 業務説明会〉



〈関東森林管理局 国有林モニター会議〉



〈Cocaira(みなかみココイラ)〉



〈JICAホンジュラス研修〉



〈akayaカフェ〉

### Ⅲ 環境教育活動への協力等

赤谷プロジェクトでは「生物多様性の復元」と「持続的な地域づくり」の実現に取り組んでいます。この二大目標を推進するためには、プロジェクトの理解者及び協力者を増やしていくことが必要です。そのための一つの方法として、赤谷センターでは環境教育活動への協力を積極的に行っており、赤谷プロジェクトの特徴を生かした環境教育プログラムの充実を図っています。

※ 赤谷プロジェクトの特徴を生かした環境教育プログラムとは、プロジェクトの調査活動で得られた情報が環境教育の教材として提供され、また、環境教育で得られた情報はプロジェクト調査活動に提供される、フィードバック関係にある参加型のリアルタイムな環境教育プログラムです。

#### 1 要望に応じたプログラムの作成

センター発足当初から培ってきた独自のプログラムに加え、参加者のニーズを収集しながら、「より安全に！より楽しく！より学べる！」提案型のプログラム作りにさらに取り組みました。

##### (1) プログラム提供の流れ

- ① 依頼者から要請（自然体験活動協力依頼書）
- ② 依頼者のニーズを把握
- ③ 企画の提案→依頼者と内容の確認（安全に関する事項含む）
- ④ 事前調査（危険等の予測・緊急時・雨天時の確認・役割分担）
- ⑤ 楽しみとしてのサプライズメニューの検討！
- ⑥ 当日の天候を予測し実施
- ⑦ 報告書の作成（失敗した点・改善すべき点は必ず記載）
- ⑧ ホームページへ掲載及び活動集計表へ記載

##### (2) 提案した主なプログラム

プログラム名	目的	対象
・森であそぼう ・自然の素材を楽しもう (森のようちえん・放課後こども教室)	・自然の素材に触れて加工し、楽しむ	未就学児 小学生
・森の探検ウォークラリー ・旧三国街道の遠足	・体験活動を通じて、仲間と楽しさ・達成感を分かち合う ・森の生き物について学ぶ（危険な動植物も含む） ・樹木の生きるための工夫を学ぶ ・楽しい思い出をいっぱい持ってかえる	小学生 中学生 (デザントスポーツキッズ教室)
・赤谷プロジェクトの概要等 ・生物多様性復元に向けた取組	・赤谷プロジェクトの概要 ・溪流の連続性の復元・人工林から自然林への復元 ・野生生物のモニタリング調査	大学生
・赤谷プロジェクトの概要の紹介 ・赤谷プロジェクトと周辺地域の紹介	・赤谷プロジェクトの概要 ・溪流の連続性の復元及び人工林から自然林への復元 ・野生生物のモニタリング調査 ・生物多様性と環境教育（意見交換等） ・地持続的な地域づくり 等	環境省 林野庁 各種団体等

## 2 環境教育等の実施状況

平成27年度は、24回延べ846人へ対して外部から依頼を受け環境教育等を実施しました。(イベント的に実施したものは除く)

### (1) 環境教育(小中学生及び親子体験含む)

年月日	曜日	名称	内容	実施場所	主催者
H27. 5. 13	水	蘇我中学校 体験学習	森の体験ウォークラリー	高原千葉村	蘇我中学校
H27. 6. 5	金	山王中学校 体験学習	森の体験ウォークラリー	高原千葉村	山王中学校
H27. 6. 13	土	朝日ヶ丘中学校 体験学習	森の体験ウォークラリー	高原千葉村	朝日ヶ丘中学校
H27. 6. 19	金	椿森中学校 体験学習	森の体験ウォークラリー	高原千葉村	椿森中学校
H27. 7. 22	水	新治小学校 サマースクール	森の体験ウォークラリー・ほか	高原千葉村	新治小学校
H27. 8. 1	土	デサントキッズスポーツ教室	森の体験ウォークラリー	高原千葉村	デサント・みなかみ町
H27. 9. 15	火	生浜中学校 体験学習	森の体験ウォークラリー	高原千葉村	生浜中学校
H27. 10. 3	火	新治小学校 遠足	旧三国街道の遠足	旧三国街道	新治小学校
H27. 10. 7	水	沼田北小学校 体験学習	森の体験ウォークラリー	高原千葉村	沼田北小学校
H27. 11. 8	日	森のようちえん(雨のため屋内)	クラフト、ほか	さる小	もりのようちえん
H27. 11. 18	水	新治こども教室	森の話・クラフト	新治小学校	新治こども教室
H27. 11. 24	火	稲浜中学校 体験学習	森の体験ウォークラリー	高原千葉村	稲浜中学校
H27. 12. 3	水	新治小学校 旧三国街道遠足事後学習	10/3遠足の振り返り、動物調査	新治小学校	新治小学校
H28. 2. 8	月	北っこくらぶ 放課後こども教室	森の話・クラフト	月夜野小学校	北っこくらぶ
H28. 3. 25	金	放課後こども教室 藤原小学校	森の話・クラフト	藤原小学校	放課後こども教室

#### 「森の探検ウォークラリー」(千葉市立蘇我中学校)

平成27年5月13日(水)群馬県みなかみ町相俣 高原千葉村において、千葉市立蘇我中学校2年生の生徒さん12名(引率1名)に「森の探検ウォークラリー」を実施しました。

プログラム内容は次のとおり。

- ①ターゲット・アニマル：フィールドスコープや双眼鏡を使ってモニタリング調査体験をします。
- ②トレジャー・カード：無線機で通信を楽しみながら、赤谷の森野生生物カードを探します。



ロケットリーフ大会

- ③森の恵みともりのかけら：森の恵みとは？みんなで考えます。森のかけらストラップを作ります。

- ④樹木の種子：樹木が子孫を残すための戦略を学び、種の模型「ロケットリーフ」をつくります。

4つのプログラムを楽しみながら経験したあとは、④で作った「ロケットリーフ」を飛ばして種の飛び方を体験し、ロケットリーフで滞空時間を競うロケットリーフ大会を実施し終了しました。



双眼鏡を使ってモニタリング体験



樹木の戦略とは！

### 新治小学校遠足（6年生）

平成27年10月6日（水）群馬県みなかみ町「旧三国街道」において、新治小学校秋の遠足を実施しました。参加人数は、6年生43名（2クラス）、教員5名。登山道入口付近はやや涼しい朝でしたが、みんな元気に出発です。

旧三国街道を歩きながら地元の歴史を現地で学び、自然に大いに触れ、センサーカメラで動物調査の体験もしました。

○遠足の中で実施する主なメニュー

- ・旧街道の推定樹齢300年を超える巨大なミズナラやブナの木に触れてみよう！
- ・色づく樹木の観察をしよう。なんで紅葉するの？
- ・センサーカメラを設置して、どんな動物が住んでいるのか調べよう。（12月の事後学習で振り返りの学習をします。）



樹齢約300年のブナのお話し



旧三国街道には歴史がいっぱい

### 新治小学校遠足の事後学習（6年生）

平成27年12月3日（木）旧三国街道で10月に実施した、



事後学習の様子

「旧三国街道遠足」の事後学習を新治小学校2階視聴覚室で行いました。

遠足の途中、旧街道の色々なポイントでどんなことを学んだか振り返ります。また、みんなで設置したセンサーカメラの撮影結果を見ながら、自分たちの町にはどんな動物が住んでいるのか学びました。

おもしろい気づきや楽しい発見などがあった生徒には、野生生物カードを配布し、積極的に質問や発言をするきっかけとなりました。



遠足当日を思い出し

### 新治小の生徒からの質問等

- 倒れていた大きなブナの木はどのくらいでなくなるの？
- 木の寿命はどのくらい？？
- 寿命の長い樹はどんな木？
- センサーカメラに写っていた動物以外に、どんな動物が住んでいるの？
- 旧街道の話に出てきた坂上田村麻呂について知りたい。



昔の街道は今、どうなってるの？

### デサントキッズスポーツ教室

平成27年8月1日（土）みなかみ町相俣の高原千葉村において、「デサントキッズスポーツ教室」が開催され、森林環境教育プログラム「森の探検ウォークラリー」を実施しました。

みなかみ町と協働のまちづくり活動に参画している（株）デサントが、みなかみ町において毎年開催しており、昨年に引き続きみなかみ町から協力の依頼があったものです。



森と私たちのお話



ターゲット・アニマル

このイベントは、「みなかみデサントスポーツタウンプロジェクト」の一環として2011年から開催されています。

※「みなかみデサントスポーツタウンプロジェクト」とは、みなかみ町とデサントが「地域密着型のコラボレーション」として、また「地方自治体と企業の官民コラボレーション」として、四季おりおりのスポーツや様々なイベントを実施し、子供から大人まで楽しめる健康的なライフスタイルの提案を行っているものです。

### 新治こども教室

平成27年11月18日（水）新治小学校において「放課後こども教室」が行われ、人と森とのつながりを伝えるプログラムを提供しました。「森の恵みと学びの家」から市毛さんと協働実施です。

「放課後こども教室」とは、児童が放課後に安全・安心に過ごすことのできる居場所を作ることを目的として地域の教育活動サポーターが指導にあたって実施している取組です。

参加者は新治小学校1年生から3年生の60名と幼児4名とスタッフを合わせて総勢74名！



森のタペストリーをもって記念撮影

#### 【プログラム】

- ・ 森と人とのつながりを伝える紙芝居「ぼくたち わたしたち のこと」
- ・ 森のかけらすトラップづくり
- ・ 竹と木の実を使った「どんぐり転がし」
- ・ 輪切りの板を使った「森の積み木」
- ・ 木の葉で作る「森のタペストリー」



森と私たちのお話

## (2) セミナー・研修等（大学生及び社会人）

年月日	曜日	名称	内容	実施場所	主催者
H27.5.16-17	土日	放送大学面接授業	赤谷プロジェクトの内容と意義（講義：藤澤所長） 赤谷源流の豊かな自然を観察し、わが国の水源と生物多様性を考える（講師：長嶋成和、アシスタント：赤谷センター職員）	沼田市立図書館 小出俣林道ほか	放送大学群馬学習センター
H27.8.26	水	生物多様性保全研修：理論編（森林総合研修所）	「生物多様性の復元と持続可能な地域作りを目指して」をテーマに赤谷プロジェクトの取組	林野庁森林技術総合研修所	林野庁森林技術総合研修所
H27.10.15	木	群馬県立農林大学校 森林管理実習	森林管理学習Ⅱ「生物多様性に向けた取組」	赤谷プロジェクトエリア	群馬県立農林大学校
H27.10.26	月	林野庁生物多様性保全研修（実習編）	講義：赤谷プロジェクトの取組（講師：藤澤所長） 「治山事業（茂倉沢）における渓流環境の生物多様性復元の取組（講師：関東森林管理局治山課長 岡本 雅人氏）」	利根沼田森林管理署 赤谷プロジェクトエリア	林野庁森林技術総合研修所
H27.10.27	火	林野庁生物多様性保全研修（実習編）	「生物多様性保全のためのシカ被害調査と防除方法、森林衰退状況調査等（森林再生支援センター 専門委員 高田研一氏）」	赤谷プロジェクトエリア	林野庁森林技術総合研修所
H27.10.28	水	林野庁生物多様性保全研修（実習編）	「生物多様性の復元に向けた森林生態系管理（東京農工大学名誉教授 亀山章氏）」	赤谷プロジェクトエリア	林野庁森林技術総合研修所
H27.10.29	木	林野庁生物多様性保全研修（実習編）	「猛禽類の生息環境の向上に向けた森林生態系管理（講師：（公財）日本自然保護協会 出島誠一氏）」	赤谷プロジェクトエリア	林野庁森林技術総合研修所
H27.10.30	金	林野庁生物多様性保全研修（実習編）	グループ討議（講評）	林野庁森林技術総合研修所	林野庁森林技術総合研修所
H27.11.9	月	綾プロジェクト（意見交換会）	イヌワシ試験地、小出俣自然林復元試験地を視察しての意見交換	イヌワシ試験地 小出俣自然林復元試験地	赤谷プロジェクト
H27.11.11	水	環境省自然保護官等研修（所沢市）	「林野行政に見る地域協働～赤谷プロジェクトを例に～」	環境省環境調査研修所	環境省環境調査研修所
H27.12.2	火	JICA ホンジュラス 「ダム湖流域管理における市民参加と普及システム」コース	三国山地/赤谷川・生物多様性復元計画（赤谷プロジェクト）の取組	たくみの里ほか	JICA ホンジュラス
H27.12.9	月	上智大学地球環境学研究所ゲスト講義	赤谷プロジェクト～いのちを未来へつなぐ～	上智大学四ツ谷キャンパス	上智大学大学院地球環境学研究所
H27.12.15	火	信州大学人文学部「環境政策の社会学」講義	講義：環境政策の社会学（赤谷プロジェクトの取組）（講師：藤澤所長）	信州大学松本キャンパス	信州大学人文学部・赤谷森林ふれあい推進センター

赤谷プロジェクトは、「生物多様性の復元」と「持続的な地域づくり」に関する先進的な取組であるとともに、国有林の協働管理のモデルでもあります。赤谷プロジェクトのこれまでの成果、協働管理のためノウハウ等について、他の国有林をはじめとする国内外の森林管理に広く役立ててもらうため、林野庁等の行う研修や大学生・社会人向けのセミナーにも積極的に協力することとしています。

### 放送大学面接授業

平成27年5月16日（土）昨年に引き続き放送大学群馬学習センターから依頼を受け、沼田市立図書館において「赤谷プロジェクトの内容と意義」というテーマで所長が講義を行いました。受講者16名。

生物多様性の保全が世界の共通課題と認識されていることや、2050年までに「自然と共生する世界」を実現することをめざして策定された、2020年までの20の個別目標（愛知目標）を紹介しながら、赤谷プロジェクトの取組内容を説明しました。



自然林復元試験地の説明の様子



講義の様子

また、翌17日（日）には赤谷プロジェクトのフィールドである小出俣林道において、野外面接授業が開催され、長嶋先生のアシスタントとともに、自然林復元試験地の取り組みを紹介しました。

### 生物多様性研修（論理編・実習編）

平成27年8月26日（水）林野庁森林技術総合研修所からの依頼を受け、東京都八王子市「林野庁森林技術総合研修所」にて、地方公共団体及び森林管理局担当職員等16名を対象に、赤谷プロジェクトの取組を紹介しました。

この研修目的は地域の自然的・社会的状況に応じた実効性のある生物多様性保全を図るため、生物多様性保全の基礎的な知識及び森林施業を実行する際の留意点等を得させ、生物多様性保全について指導できる者の育成を目指すもので、生物多様性の保全や復元としてどのような取組を行えばよいのかについて、赤谷プロジェクトの取組の視点と指標や取組の実例をお話ししました。



藤澤所長の講義



猛禽のモニタリング実習の様子

### 生物多様性研修（実習編）

平成27年10月26日（月）から30日（金）の5日間、フィールドを赤谷の森に移して「実習編」研修が行われ、赤谷プロジェクトの取組についての研修講師および現地研修への協力を行いました。

### 「環境省自然保護官研修」（環境省職員）

環境省環境調査研修所長の依頼を受け、平成27年11月11日（水）環境省環境調査研修所（埼玉県所沢市並木3-3）において、環境省自然保護官等12名を対象として、赤谷プロジェクトの紹介を行いました。

### 「林野行政に見る地域協働～赤谷プロジェクトを例に～」

平成25年度から始まり今年で3回目です。「林野行政に見る地域協働～赤谷プロジェクトを例に～」というテーマで、協定3者から「国有林における幅広い関係者の協働による生物多様性の復元と持続的な地域づくりに向けた取り組み～いのちを未来へつなぐ～」 「国立公園の協働型管理を進めるための赤谷プロジェクトの事例」「持続的な地域づくりを目指して」と題して、今までの経緯やそれぞれの立場でプロジェクトを進める想いも交えながら講義を行いました。

最後に各自然保護官から自分たちが抱えている問題を交えながら活発な質疑応答が行われました。

### ○ 主な質問等

- ・今まで取り組んできた試験林やダム撤去による溪流の連続性など、これから広げられるものと広げにくいものなどあると思うが、これからどのようにしていくの



赤谷センターの取組を紹介



意見交換の様子

か。

- ・生物多様性の復元はクマタカなどを指標としているが、どこまで戻れば成功と考えるのか。
- ・行政とはどのようなかわりをしてきたのか。
- ・林さんにとって上信越国立公園とはどのようなものか。
- ・自分がやりたいと思ったことを周りに働きかけてもうまく巻き込めない。どのようにしたらいいのか。
- ・前日の講義「釧路湿原に見る地域協働」と今日の赤谷プロジェクトの話聞いて、どのように感じたか。どんな違いがあったか。(日本自然保護協会 出島氏より)
- ・自然林復元試験地はどのようにして選定したのか。
- ・ユネスコエコパークに国有林はどのように連携していくのか。
- ・白神山地もセンカメ調査でシカの生息が確認されてきた。これから捕獲を視野に入れて取組むのに地域とどのような役割を分担していくべきか。
- ・山ビル対策の有効な方法はあるか。



質疑の様子

### 国際協力機構（JICA）によるホンジュラス国・国立電力公社職員の視察研修

平成27年12月1日（火）独立行政法人 国際協力機構（JICA）から委託を受けているNTCインターナショナル株式会社より、地域等と協働で自然再生などに取り組んでいる赤谷プロジェクトの活動について紹介して欲しいとの依頼が日本自然保護協会にあり、JAICAホンジュラス「ダム湖流域管理における市民参加と普及システム」コースで来日されたみなさんを対象に、地域協議会と3者で赤谷プロジェクトの紹介とたくみの里周辺の案内をしました。



森の恵みと学びの家にて説明

見学に来られたのはホンジュラスのダム発電に関わっている人たちで、ダム施設周辺の地域の方々の土地利用の軋轢などの問題を抱えている中で、赤谷プロジェクトがどのように合意形成を図っているのかなどに強い関心がありました。

#### 【主な質問等】

- ・地域の方が国有林の木材を使うのに規制はあるのか。
- ・3者が協働で取り組む体制は非常に興味深い。国有林で取り組んでいるこのプロジェクトを民有林に広げられる可能性はあるのか。
- ・地域協議会の市毛さんはどのような気持ちで、赤谷プロジェクト（地域協議会）に参加することを決めたのか。
- ・民有林でも生物多様性保全や復元をめざしているところがあるか。



たくみの里の視察の様子

### 信州大学人文学部「環境政策の社会学」講義

平成27年12月15日（火）信州大学人文学部長より、受講生が将来、生活者・市民・企業人・行政・専門家など、それぞれの立場で、環境問題解決過程の担い手となるための視座を獲得することを授業のねらいとした科目「環境政策の社会学」において、赤谷プロジェクトの取組についての講演依頼があり、赤谷プロジェクト～いのちを未来へつなぐ～と題して講演を行いました。

信州大学「環境政策の社会学」履修登録者 78名

地域づくりWG委員の茅野准教授と調整の中で、「赤谷プロジェクトがどのような課題にどのような体制で取り組み、その中でどのようなことを日頃考え、実感しているかについて話をしてもらいたい」との依頼から、「公務員として何をするのか」の前に、この時代を生き未来をつくる一人の人間として、未来にとって何が必要で、今自分ができることは何かを考え実行すること、できるかできないかではなくやるかやらないかという考えを持って取り組みを継続していくことが大切ということについて話をしました。



藤澤所長の講義

### 3 赤谷の森自然散策

一般の方々を対象に、赤谷の森の自然を楽しみ、自然を学ぶとともに森と人とのつながりを学べる機会として、環境教育プログラム「赤谷の森自然散策」を開催しました。

これは、赤谷センターの主催で、平成18年度から継続して実施しています。

一昨年から連携してきた地元猿ヶ京温泉の「民話と紙芝居の家」の実演も好評で、みなかみ町と連携（共催）し、ボランティアスタッフの協力をいただきながら「学ぶ、遊ぶ、楽しむ」を基本にしたイベントとしてきました。

・平成27年度の実績 実施回数：3回 延べ参加者数：75人

平成27年5月23日（土）～春のかおりと紙芝居～

実施場所：旧三国街道（新潟県側～群馬県側）

参加者：20名

講師・スタッフ：赤谷森林ふれあい推進センター職員等8名

ボランティアスタッフ4名

実施内容：当日は好天の中、新緑を楽しみ、春の香りを感じながら旧三国街道を散策しました。参加者はガイドの自然にまつわる話題も楽しみながら、



ニリンソウの群落前で記念撮影

ブナをはじめとする木々の新緑やニリンソウ、ナエバキスミレ、ムラサキヤシオツツジなど白、黄色、紫の色とりどりの花々を観察しました。

東屋で昼食とおやつの後には「民話と紙芝居の家」館長の持谷先生と宮崎さんから猿ヶ京に伝わる民話や自然、動物にまつわる紙芝居の実演をしていただき、さらに今回はサプライズ！で「民話と紙芝居の家」の「こでまり教室」（民話や紙芝居を勉強している子ども達）から5名の子どもたちが語ってくれ、さわやかな空気の中で時間を忘れて鑑賞しました。



沢の付近では残雪も楽しめました

○参加者の感想（アンケートより）

- ・とても、わかりやすい説明。自然にふれ楽しい一日でした。
- ・花の固有名の見わけ方等、詳しく説明して下さい、とても興味深くお聞きしました。
- ・だんごサービスが良かった。
- ・鳥の話なども聞いてみたいです。
- ・安全につれていってくれてありがとうございます。



東屋で紙芝居の実演の様子

平成27年10月24日（土） ～心で感じる秋～

実施場所：旧三国街道（群馬県側）

参加者数：15名

講師・スタッフ：赤谷森林ふれあい推進センター  
職員等10名

ボランティア・スタッフ：3名

実施内容：絶好の秋晴れの中、錦秋に染まるブナ・ミズ



鮮やかな紅葉の中を進みます

ナラの樹木を観察しながら旧三国街道を歩きました。紅葉は見ごろ！参加者のみなさんはカメラを片手にガイドの説明に耳を傾けながら、三国路の紅葉狩りを楽しみました。



持谷先生の笛演奏

昼食は三国峠で、おやつも楽しみながら過ごします。そして「民話と紙芝居の家」から特別講師！持谷靖子先生と宮崎りえ子さんをお招きし、三国権現様の前で晴れ渡る青空の下、三国峠にまつわる昔話や紙芝居を鑑賞しました。

後半は三国峠の厳しい冬を乗り越えてきた不思議な形をした木なども見ながら全員笑顔で下山しました。

○参加者の感想（アンケートより）

- ・トチの木の離層など詳しい説明で勉強になりました。
- ・とても丁寧に細かく説明して頂き勉強になりました。
- ・子どもたち、大人たち、それぞれに対応したガイド、楽しかったです。
- ・赤谷カードが良かった。紙芝居式の工夫もGoodです。保育士のように親切にして頂き、心より感謝します。
- ・なぞなぞできて楽しかったです。



青空と三国権現様をバックに記念撮影

**平成28年2月11日（木：祝） ～冬の自然散策と紙芝居！～**

実施場所：群馬県みなかみ町相俣（いきもの村）ほか

参加者数：40名

講師・スタッフ：赤谷森林ふれあい推進センター職員等9名

ボランティア・スタッフ：6名

実施内容：スノーシューを履いて雪上でのアニマルトラッキングや冬の樹木の観察、大人も子供も入り交じっての雪上ゲームなどみんなで童心に返りながら楽しみました。天候は快晴！暖かい日が多く雪が心配されましたが、前日の雪で朝はパウダースノーを楽しむなど絶好の散策日よりとなりました。

午後は場所を「民話と紙芝居の家」に移し、猿ヶ京温泉に古くから伝わるお話「雪むすめ」「クマとキツネ」や紙芝居「にほんざる」「はるをみつけた」などを鑑賞し終了しました。

**○参加者の感想(アンケートより)**

- ・ ゆっくりペースでとてもよかった。
- ・ 森に興味を持てた。
- ・ 動物の写真や大根抜きゲームなどとてもよかった。
- ・ 猿ヶ京の民話や紙芝居でその土地のことや歴史がわかり楽しかった。
- ・ 赤谷の森、そして暮らしている人たち、その民話や紙芝居に心がなごんだ。
- ・ 民話や紙芝居をもっと聞きたかった。
- ・ またぜひ参加したい。いのちのこと、フォレスマイル、大変よかった。子供も笑顔ですてきな思い出になった。大事にしていきたい。



快晴です！



雪と遊びます！



トチの実リレー



三国山系をバックに記念撮影